



定住外国人子ども奨学金 News Letter

奨学生と聖心女子学院高校ほか4校の皆さんとの交流会を開催しました！

夏休みに入って間もなくの8月5日（金）に小林聖心女子学院など4校の高校生が神戸定住外国人支援センター（KFC）の見学を訪れました。KFCに訪問されるのは初めてで、KFCとはどういうところか、定住外国人子ども奨学金とはどういうものなのかという説明を受けてもらった後、奨学生との交流会に参加してもらいました。今回見学に来られた学生さんの中には近畿地方だけでなく、北海道・関東地方からの学生さんもおられたので、兵庫・神戸内のニューカマーの子どもたちが直面する問題を知ってもらうと同時に自分達の地域のニューカマーの子どもたちが直面する問題との違いについても考えてみて頂けたらと思います。

さて、学生さんと奨学生との交流会では、最初お互いに緊張している様子でしたが、奨学生1～2名に対して高校生数人という、いくつかのグループに分かれて質疑応答の時間をとったところ、各グループいろいろな話題で盛り上がっていました。学生さんの「今、学校で大変なことはありますか？」「高校の入試で難しかったことはありますか？」などの質問に対し、奨学生が丁寧に答えていっていました。たくさんの方の前でしゃべるのが恥ずかしそうな奨学生もいましたが、喋っていくうちにだんだんと打ち解けていったようで、最後の方になると自分からいろいろなことを話してくれました。その話に真剣な面持ちで耳を傾ける学生さんの姿がとても印象的でした。彼女たちにとって、様々な発見があったようで、各グループから「へえ～」という声がいっぱい聞こえてきました。1年以上付き合ってきた私にとっても、初めて知ることもあり、学生さんたちと一緒に学べてよかったです。また、奨学生の子たちにとっても、あまり自分のことを話す機会がなかったので良い経験になったのではないかと思います。今後もこのような機会を設けていきたいと思います。

最後にこのような貴重な機会を提供して下さった小林聖心女子学院をはじめ各学校の先生方に心から感謝申し上げます。
(奨学金事務局ボランティア 青戸 彩)



奨学生からのメッセージ

今回は、自分で決めたテーマについて、作文を書いてもらいました。

(2期生)

「今までの振り返り」

私は二〇〇八年の一月に日本にきました。そのとき日本語は全然話せませんでした。日本の中学校でいい思い出はほとんどありませんでした。高校に入ってから同じことを二度と繰り返さないように日本語の勉強に一生懸命取り組みました。日本に来て三年間、今まで困っていることは、日本語をいくら頑張っても覚えようとしても日本人の子供たちにはうまく喋れないことです。みんなアジア系だから外見から見たら全然変わらないけれども実際に喋ったら自分が外国人である事がわかってしまいます。いつも「えっ、どこからですか」と聞かれたときは本当にいやでした。自分が外国人だから恥ずかしいのではなくてただみんなと同じようにいたかったのです。

でも今はそういう気持ちは消えました。自分がみんなと違うからこそもっと頑張れるようになったと気づきました。そう考えたら自分がとても恵まれているなと感じました。今までの自分はとてもネガティブだった。なんでもマイナス思考ばかり考えていました。周りの声援を励みとして受け取ったのではなくて常にプレッシャーとして受け取りました。でも今の私は、プレッシャーを感じられるのは幸せなことだと思っています。そのプレッシャーは周りが期待している証だからです。期待できない人に「あなたならできる」と期待するわけはありませんですから。「プレッシャーは幸せの証」と、前向きに捉えることができれば、さらに力を発揮できると思います。

私の将来の夢は、中国と日本の貿易会社で働くことです。今までの夢はころころ変わったけれど今の夢は自分にとって一番実現したいなと思っています。だからこれからもポジティブで一歩一歩しっかり頑張りたいと思います。

(2期生)

「私の国の夏休み」

ペルーの夏休みは12月の半ばに始まります。そして新学期は3月に始まります。12月後半と1月と2月はのんびり過ごします。夏休みの宿題はありません。

夏休みの間にクリスマスとお正月が重なっているので、子どもたちが家族と一緒に楽しんで過ごせます。私の家族はいつも私の家に集まって、クリスマスは楽しく過ごしました。

夏休みの間に私は週末によく、家族と一緒にプールや海へ行ったりしました。車で私の家から海まで1時間ぐらいかかったので、けっこう近かったです。平日にも、よく友だちと一緒にプールへ行ったりしました。

たいていの子どもたちは習い事をします。例えば、絵画を習ったり、塾で数学や国語を勉強したり、英語スクールへ行ったり、スポーツをしたりします。私の場合は、スイミングスクールで水泳したり、塾で数学や英語を勉強したり、ペルーの舞踊のマリネラを練習したりしました。

(2期生)

「東日本大震災について」

日本には昔からいろんな地震が起きたなかで一番最近、1995年・1月・17日にあった阪神淡路大震災が阪神部をおそい、日本中が一つになってボランティア支援やいろいろな方法を通して阪神淡路大震災で被害を受けた人たちを助けたりすることがありました。

今年の三月に起きた東日本大震災は阪神淡路大震災に比べて地震だけでなく津波という大きな被害をもたらす大震災でした。この津波でいろんな家、町、命が奪われました。

でも1995年に起きた阪神淡路大震災で日本中の国民が経験したこの大震災で今年起きた東日本大震災で被害をうけ東北の方たちのためにできることや支援、ボランティア活動で復興に少しずつ近づいている。僕は、この東日本大震災が起きた時、日本中の人たちが一つになって東北の方たちを支えるためにいろいろな支援したり、ボランティアとして東北の方へ行ったり、復興支援で一つになって支えている日本中の姿に感動しました。

(3期生)

「学校生活について」

今年高校2年生になって予備校に通い始めました。学校の授業以外にも予備校の授業もとっています。学校と違って真剣に進学したい人の集まる場所ですので、周りの人から刺激を貰いながら、勉強に励んでいます。

普段学校のある日は放課後に予備校の自習室で宿題や問題集をやっています。今は夏休みですが、僕の国友ら友達と遠足に行ったり親せきの家に遊びに行ったり里帰りしたりしますが、進学や大学受験のことも考えて毎日予備校の自習室で勉強を頑張っています。志望校と今の自分の学力の差が大きいからか、今不安ながら志望校に向けて頑張っています。一番得意な科目は英語で、英語の成績もいいですが、英語と比べたら数学はそんなに出来ていませんので、今毎日数学の勉強を頑張っています。ですが、毎日数学の苦戦が続いていますが、いつかきつという気持ちをもって諦めずに引き続き更なる努力をしたいと思いません。

(3期生)

「本気の夏」

今年の夏は昨年とくらべるとちょっと暑いと思います。

私は今年の夏は部活を頑張りたいと思いました。なぜそう思うか、部活で部員がいっぱいいるし、やっぱりうまい人がいて、自分が下手だから、もっとうえを目指して、プレーを頑張って、楽しんでやります。私は学校の部活で一番うまい人じゃないと思うけど、でも努力は私はずっと頑張っているから、うまい人に負けないように、やるしかないです。毎朝いちばん学校へ行って、体育館で一人掃除して、ボールをさわって、いろいろ思いだして、悲しみもあるけど、楽しみもあります。部活のとき先生に叱られて、ちょっといらいらとか悩みもあるけど、友達と相談するから、解決できて、すっきりします。

今年の夏は2年生の最後の夏だから、気合い入れて、本気でやります。試合もあるけどそのときは自分が今まで練習した成果はちゃんと出して、先生のために、チームのために自分のために頑張ります。普通の部活のときからひとつずつみかさねて、練習試合のときもがんばります。

夏はちょっと暑いけど、今を乗り越えて、後から悔いのない思いを頑張ります。最後まで諦めないで、どんだけしんどくても、やるしかないです。気合いだ。

(3期生)

「ジュニア・インターシップ」

夏休みの期間中にジュニア・インターシップに参加させてもらいました。私は幼い頃から看護師になるのが夢だったため病院に行くことにしました。神野病院で4日間の体験をさせていただきました。看護師のお仕事はとて大変で忙しいのに私は学生の社会勉強のため貴重な時間をさいて色々な事を教えてもらいました。本当に恵まれていると、本当に実感しました。体験中で私が一番感心したことはそこに勤めている方々です。しんどくて辛いのに患者さんに辛い顔を一つも見せず気づかいや笑顔でいつも接している事にとて感心しました。

今回の体験を活かして色々な気持ち覚悟を改めて、思いもう一度がんばっていきたいです。

(4期生)**「東日本大震災」**

3月11日思ってもいなかった出来事でした。私はしんじられませんでした。えいがのようでビックリしました。ニュースを見た時すぐ行動をしたかったが、体が動きませんでした。自分の中で「どうして、こんなこと・・・！」私はこう思った。“人間は自然には負けるかもしれないけど人間にできることは自分たちで助けあうことだ”と思います。私はお金といのりをすることしかできません。あと、自分に出来ることとして、電気やガスなどあまりつかわないようにしています。地球のためにも、地球温暖化のためにも、もう日本にも他の国にもこういうことがおきないように私達人間は助けあわないといけないとすごく自分の中で思っています。今、あつい中特に避難者の人たちもせんぷうきだけでがまんをしていると思います。その中で私はみなさんはどういるのか熱中症にならないかなとすごく心配です。早く前みたいになってほしいとすごくいのっています。みなさま日本のパワーはすごいと思います。日本なら立ち上がってがんばれると思います。

一緒にがんばって行きましょう！

(4期生)**「学校生活」**

四月には、高校生になりました。定時制高校に入りました。さいしょは、ともしんばいしました。でも、友達ができました。先生たちもやさしいです。

六月には、みんな作文を書きました。クラスの中で、担任の先生は、一番いいと思う作文をえらんで、えらんだ人は、体育館で作文を読みます。私は、たくさん人の前に話すのは、はずかしいです。きんちょうするけど、がんばりました。

授業は、全部日本語で行われます。だからフィリピン人のサポートの先生がいます。毎日学校に一回来ます。

三年で卒業するためと私のゆめのため、いっしょけんめいに勉強します。むずかしいけど私は、がんばります。

(4期生)**「私の夢」**

中学3年生の第3学期に担任の先生から「あなたの夢は何ですか？」ときかれました。

私は「まだ決まってない。」と答えました。「受験はレベルの高い学校に行くことじゃなくて、自分の夢に役立つような学校に行くことです。」と先生は言った。

私は先生の話聞いて、自分の夢を探しました。私は全部の科目の中で英語が一番好きです。私は昔から外国人のように上手に英語を話したいです。だから、私は通訳になりたいです。

だから、私は国際クラスのある神戸学院大学付属高校に入りました。私は2年生から、国際クラスに入って、おもに英語中心に勉強して、できれば、大学に留学したいです。しかし、留学するには、英検準1級やTOEICの英語が必要です。私は今、英検3級しか持ってないです。私はこの夏休みから少しずつ英検やTOEICの勉強をして、1年生の中で英検準2級を取る予定です。

私の夢は中国語、日本語と英語、3カ国語が話せる通訳になりたいです。

定住外国人子ども奨学金 イベント報告

定住外国人子ども奨学金では、収益を奨学金に充てることやPRを目的として、奨学生とともに様々なイベントに参加しています。ここではその活動についてご報告します。

神戸まつり

5月15日(日)に神戸まつりが開催されました。私たち奨学金スタッフも多数のエスニック料理を備えて、出店致しました。今年は去年よりもたくさんのスタッフが手伝いに来てくださったのでテントの中は人でぎゅうぎゅうでした。スタッフの中には、いつもKFCの学習支援を手伝ってくださる支援者の方々や大学生の方々、もちろん奨学生(今年決まった4期生や1期生の子も来てくれました)といろんな方が来てくださいました。みんなで一緒に作って売ってと、とても大賑わいでした。

今回は、スタッフの人数にあわせ、メニューも増やして挑みました。ベトナムから来られた方がいたので、メニューの中に、本場の揚げ春巻きを加え、唐揚げ、揚げ餃子、チヂミ、冷凍パイ、フランクフルトといろんな味が楽しめるようにしました。しかし、震災後ということもあり、神戸まつりが盛り上がるのか、無事に売れるのかがとても不安でした。が…開店して驚きました。お客さんの行列で、あれだけいたスタッフも全員忙しくテント中を動き回っていました。中でも揚げ春巻きはヒット商品で常に行列!なので、揚げ春巻き人員にはひたすら巻いてあげてと大忙しでした。今年入った4期生の子も飲み込みが早いので、ひたすら揚げ春巻きをまいてもらいました。一緒にきてくれたお友達の方やお姉さんにまで手伝っていただき、揚げ春巻きを巻いて頂いてありがとうございます。お昼にはチヂミも人気で中では一生懸命タネを作り、外では奨学生の子達がチヂミを焼いてくれました。2期生の子はさすが3年目ともなると慣れた手つきで次々とチヂミを焼いていってくれました。それにも関わらず長蛇の列になっていました。

今回は、奨学生の子が大活躍でした。先にあげた春巻きまきやチヂミ部隊の他に、飲み物を直射日光のあたるところで一生懸命売ってくれたり、売り子をしてくれたり、フランクフルトを焼きながら冷凍パイを売るという器用にこなしてくれる子もいました。そんな彼らの活躍があって、今回も大盛況に終わりました。

この神戸まつりの売り上げは、奨学生の奨学金にあてたいと思います。今回、手伝ってくださった皆様、暑い中ご協力いただいて本当にありがとうございました。

(奨学金事務局ボランティア 青戸 彩)



丸五アジア横丁ナイト

去る7月15日例年より早い梅雨明けで夏の盛といった趣となった中、丸五ナイト屋台に出店しました。このイベントは、長田区にある丸五市場という商店街で6~10月の各月1回金曜日に行われているイベントです。商店街の中のお店がそのままナイト屋台の店になるケースが多い事やお客さんの滞在時間が比較的長い事などから販売メニューは、ちぢみ、枝豆、えびせん、飲み物にし、ちぢみと枝豆は事前に作成して持参販売しました。夏休み前の金曜日のせいか人出も多く、準備した食べ物は全て完売しました。飲み物はまっこり、チャミスル(韓国焼酎)が、予想ほどは売れませんでした。全体の売上は予想以上で終了しました。

御協力、御助力頂きました皆様にこの場をかりてお礼申し上げます。

(奨学金事務局ボランティア 神先かつき)

灘チャレンジ2011

6月5日(日)に東灘区にある都賀川で開催された「灘チャレンジ」に参加しました。「灘チャレンジ」とは阪神淡路大震災後、神戸大学と地元の人びとが町を元気づけようと協働して始めた復興祭です。今年は3月11日におこった東日本大震災を受けて、このお祭りの意義を再度確認し、神戸の町から元気を発信しよう!と阪神淡路大震災・東日本大震災支援のパネル展示など一段と熱の入った内容が企画されました。

私たちも去年に引き続きチヂミやベトナム風揚げ春巻き、からあげや揚げ餃子など“アジア屋台”をテーマに出店させていただきました。前日まで当日の雲行きが心配されましたが、なんとか持ちこたえてくれました。バオ・カンさんによる本格的な味で大好評だったベトナム風揚げ春巻きを筆頭に食べ物は3時頃には完売するなど大盛況でした。

今回は野崎志帆奨学金実行委員長と甲南女子大学野崎ゼミの学生の皆さんにも手伝っていただいたことで一段と活気づき、終始賑やかなムードで売ることができました。当日手伝っていただいた野崎ゼミのみなさん、奨学生やその他ボランティアの方々、本当にありがとうございました。また、今回「灘チャレンジを」企画・運営してくれた灘チャレンジ実行委員会や地元委員の方々には深く感謝いたします。来年度以降も継続的な協力・参加をしたいと思います。(奨学金事務局ボランティア 呉美里)

ご協力・ご寄付ありがとうございます!

(順不同、敬称略 2011年4月29日～2011年9月1日現在)

神戸YWCA、湯口恵、加藤真澄、Stan Kirk、加藤昌彦、竹島琢夫、市沢哲、宍田美津子、宮沢恵美子、原千恵子、寺尾美紀、入江宣子、西山安子、志岐文崇、志岐千津子、SYUKO OTANI、VO THANH、笹倉徹、柴野祥二、山本見輔、有吉智香、川北ユキ子、志岐良子

2011年10月22日(土) 甲南女子大学学祭出店

2011年11月20日(日) 神戸マラソン出店

2012年2月5日(日) 第3回 KOBE カンタービレ・コンサート～とおくからきた なかまとともに～チャリティー

今年度も引き続き、募金箱設置にご協力いただきありがとうございます!

(順不同、2011年9月1日現在)

FMわいわい、(財)神戸国際協力交流センター、神戸映画資料館、ほっとすてーしょん、神戸合同法律事務所、神戸市教職員組合、神戸市教育会館、兵庫県学校厚生会神戸支部、広東料理悠苑、甲南女子大学多文化コミュニケーション学科、(株)浜屋、尼崎市国際交流協会、南あわじ市国際交流協会、高砂市国際交流協会、タンカフェ、ひめじ発世界、神戸YWCA、ベトナム料理メコン、インド料理チャルテ・チャルテ、南インドカフェダイニング チャルテチャルテ、マルヨネ4番館、チャオサイゴン、龍谷大学ボランティアセンター、ブラジリアーノ、民団西宮支部、焼き肉みなみ、韓国商工会議所、サンサイゴン、TIFFIN、NPO 法人フォロ、佐用町商工会議所青年部、元祖とんかつカレーカツヤ

今後も引き続き、募金箱設置をお願いいただける団体・店舗を募集しております!

皆様のご協力を宜しくお願いいたします。

奨学資金の寄付を受付中です

通信欄に「定住外国人子ども奨学金」とご明記の上、
郵便振替口座 00990-4-18945 神戸定住外国人支援センター
までお願いいたします。

問い合わせ先 定住外国人子ども奨学金実行委員会
〒653-0038 神戸市長田区若松町4-4-10 アスタクエスタ北棟502
NPO法人 神戸定住外国人支援センター(KFC) 気付
TEL078-612-2402 FAX078-612-3052

E-mail kfc@social-b.net Web <http://www.social-b.net/kfc/scholarship/>

